

平成26年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成27年3月2日
愛知 県

1 病害虫名：シソモザイク病（仮称）
（病原ウイルス：シソモザイクウイルス
Perilla mosaic virus (PMoV)（仮称））

2 発生作物：シソ

3 発生地域：東三河地域

4 発生確認の経過

平成25年8月中旬に、東三河地域の施設栽培の青じそ（大葉）と露地栽培の赤じそで、生長点付近の新葉を中心にモザイク症状が現れる被害が発生した。発生株のウイルス検定を、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センターに依頼したところ、新種のウイルスであるPerilla mosaic virus (PMoV)（仮称）によるシソモザイク病（仮称）であることが確認された。

5 病徴

シソでの病徴は、生長点付近の葉のモザイク症状である（写真1、2）。症状が進むと発病葉はモザイク症状とともに奇形を呈する場合がある（写真3）。また、症状は枝単位で発生することが多い。

6 病原ウイルスの特徴

（1）伝染方法

病原ウイルスは、*Emaravirus*属に近縁のウイルスと推測されており、シソサビダニ（*Shevtchenkella* sp.）が媒介するとされているが、現在のところ、シソサビダニのウイルス獲得方法は不明である。シソサビダニ以外での伝染方法は確認されておらず、土壌伝染や種子伝染、管理作業による汁液伝染の可能性は低いとされている。

（2）寄主植物

シソ（青じそ、赤じそ）のほか、エゴマで感染を確認しているが（写真4）、その他の植物での発生は認められていない。

7 国内での発生状況

本病は、平成26年までに高知県、大分県及び茨城県のシソで発生が確認されている。

8 防除対策

本病は新たな病害であるため防除対策について不明な点が多いが、次の2点の防除対策が有効であると考えられる。

（1）モザイク症状の発生がなく、媒介者とされているシソサビダニの寄生がない健全な苗を定植する。

（2）モザイク症状を呈した株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。その際、抜き取り株をビニル袋に入れ密閉するなどして、シソサビダニが健全株に移らないように注意する。

9 参考文献

富高保弘ら（2013）：高知県のモザイク症状を呈する青シソから見いだされた *Emaravirus* 様の新規ウイルス 日植病報79（3）242

久保田健嗣ら（2014）：シソモザイク病（新称）を引き起こすシソモザイクウイルス（仮称）のゲノム構造および媒介生物 日植病報80（4）301

10 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471



写真1 青じそのモザイク症状



写真2 赤じそのモザイク及び奇形症状



写真3 青じその奇形葉



写真4 エゴマのモザイク症状